

症例報告

平成18年7月27日

鍼治療が著効を示めた三叉神経痛

東京 柳澤輝雄

本症例は肩凝りのためしばしば通院している主婦が急性に発症した三叉神経痛で来院し7回（7日間）の鍼治療で治癒した例を報告する。

症例：45歳 女性 公務員事務職

初診：平成17年2月20日

主訴：顔の半面が痛い

現病歴：本日朝食後、顔の片側に突然猛烈に突きささるような痛みでがまんできないほどの激痛であったが、きわめて短時間で治った。その後、瞬間的な痛みが数十秒にわたって電光の点滅のようになり返えした。患部の皮ふを触ったり、口の中に冷い物を入れたり、あるいは談話などで口の中で空気が動いたりしただけで発作を誘発する。今回のようなことは初めてで、他の医療機関による診察、治療は受けていない。スポーツはせず、アルコールは飲まず、タバコを吸わない。

既往歴：特記すべきものなし

家族歴：特記すべきものなし

診察所見：発赤、腫脹、熱感は認められない。疼痛部位は顔の右片側で鼻、上顎、上唇の領域にある（図1）。圧痛点は眼窩下点（四白）および頬骨点（観膠）にある（図2）。

診断：本症例は顔面の右側面の鼻、上顎、上唇に痛みを誘発し、それも急に発作性におこり、刺すような痛みであり、疼痛部位が顔面片側の鼻、上顎、上唇にあり、圧痛点が四白、観膠にあり、顔面筋の痙攣が伴ってなかったことから三叉神経第Ⅱ枝の痛みであると診断した。

対応：これは三叉神経痛、俗にいう顔面神経痛です。大部分は原因不明です。誘因は食事や談話などであごを動かすときや、洗顔などがあげられます。鍼灸治療には局所の血流を改善し、痛みを鎮める作用があります。しばらく治療すればかならずよくなりますので続けて通院

して下さい。

治療・経過：治療は局所の血流改善と鎮痛の目的で以下のように行った。治療体位は患側上位の側臥位で行った。使用穴は四白、迎香、糸竹空、客主人、瞳子膠、観膠を、又誘導法に合谷を用いた（図3）。使用鍼はステンレス製1寸3分2番（40mm—18号）を用い3mm直刺し、15分置鍼した。

生活指導：洗顔は冷い水は使わないで下さい。外室の際は冷い外気に触れないよう大きなマスクなどで防護したらいかがでしょうか。

第2回目（2月21日）昨日治療後、帰宅して2時間ほどは異常はなかったが、その後、就寝までに数回発作が再発した。

第4回目（2月24日）日内に発作が起こる回数が4回ほどになった。

第5回目（2月25日）疼痛が急に軽減され発作の回数も2回ほどであった。

第6回目（2月26日）夕方軽い発作があったがすぐ治った。

第7回目（2月27日）昨夕の軽い発作以後少しの発作もおきていない。依って、治癒したと判断し、治療を終了した。

考察：本症を三叉神経痛と診断した。

以下その理由を述べる。

三叉神経痛の痛みの性質は刺すような激痛で、通常1～2分間くらい続き、しかも1日数回もくりかえして現われるという特徴がある。依って、臨床症状および診察所見から以下の類症疾患が除外した。

1. 乳様突起炎

中耳炎の既往歴がない。

2. 聴神経腫

発作的なおこりかたではなく、ずっと続く性質のものであり、痛みのおこっている顔面で感覚がにぶくなり、あごの動きがわるくなる。

3. 慢性副鼻腔炎

黄色い膿性の鼻汁がでる。

4. 側頭動脈炎

激しい頭痛、発熱、関節痛、筋痛を生じる。

5. 带状疱疹

皮膚に神経の経路にそって小さなぶつぶつが密集してできたことがある。

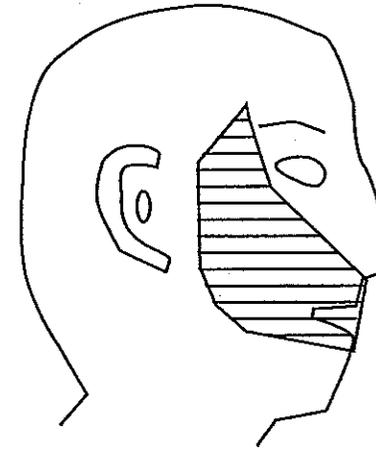
ある参考文献によると三叉神経痛の痛みはがまんできないほどの激痛であるが、きわめて短時間のものである。そのような発作が数週間ないし数ヶ月にわたって、昼となく夜となく、なんどもなんどもおこる。と記載されている。

しかし、本症例は7回（7日間）の鍼治療で治癒して以来、1年5ヶ月経過しているにも拘わらず再発したとの報告は受けていない。

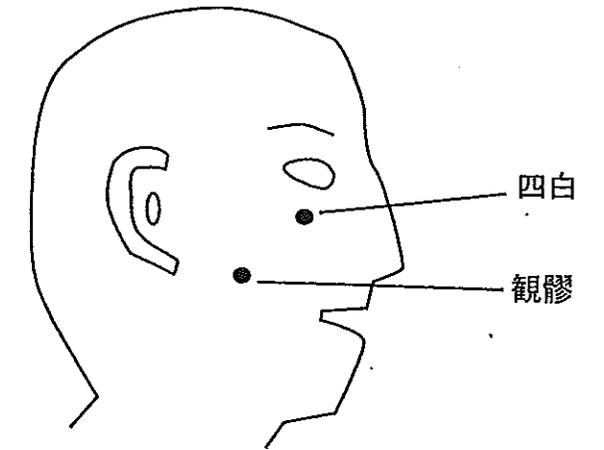
本症例の経過はきわめて順調で7回（7日間）で治療を終了することができたのは選穴が正しかったこと、刺激量が適正であったこともあり、鍼治療が神経痛に対して有効であることを実感できた症例であった。

参考文献

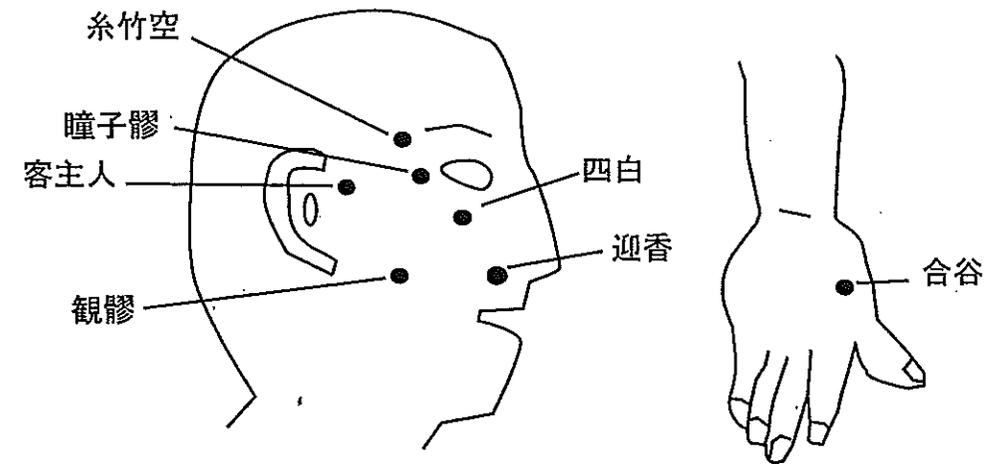
- | | | | |
|------------|---------|-------|----------------|
| 1. 医学大辞典 | 三叉神経痛 | P 798 | 南山堂 |
| 2. 家庭の医学百科 | 顔の半面が痛い | P 166 | 東京西南私鉄連合健康保険組合 |
| | 三叉神経痛 | P 533 | |



(図1) 疼痛域



(図2) 圧痛点



(図3) 治療点